



いのち

やりなおして愛する

父は親類に会うために、近くの別な国に旅行する準備をしていました。私は一緒に行ってもいいかと提案して、旅の間父ともゆっくり話す時間ができると思いました。でも実際は思ったようにならず、父を愛するように努力しましたが、私が一緒なのをうれしく思っていないようでした。帰りの旅路で大きな事故に遭い、父がその責任をとらなくてはなりませんでしたが、私たちが死ぬかもしれませんでしたが、奇跡的にわずかな傷だけで済みました。夜中に病院から警察に行き、ようやく家に帰ることができました。でも難しいことはその後でした。

母は、兄弟と一緒に病気の祖母のところに行っていたので、父は朝から晩まで車の修理のために出かけました。私は自分の部屋に閉じこもって、もう何もする気が起こりませんでした。食べることも。

私は、友だちにメールしましたが、誰も返事をくれません。自分が今どんな状態なのかを誰にも分かち合うことができず、一人ぼっちなのを感じました。ひとりの友人が電話してきて、言いました。「この痛みをもって神様への愛を十分に表すことができるよ。苦勞してお父さんを愛するようにしたのだから、立派だよ。」この言葉を聞いて、自分から先に愛するちからがまたわいてきました。父の方が傷を負ったので、彼のために、傷口にクリームをぬったりして世話をしました。そして無事だったことを心から喜ぶようにしました。少しして友だちが私を訪ねてきて、神様がどれほどわたしを愛しているか人々を通してわかりました。毎日、父をこころからゆるすことができるように祈りました。そして私の痛みを病気の祖母、母、兄弟たち、またまだ病院にいる事故に巻き込まれた人たちのために捧げました。

その人たちは今では回復し、父は彼らと和解することができました。神様は私がこれからも生きていることを望まれたのを確信しています。私には神様のすばらしいご計画があるのです。



み言葉は

いのちの言葉

エフェソ 4, 32

互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

「あなたを愛しています」、この言葉より美しい言葉が他にあるでしょうか。自分を愛してくれる人がいれば、もう一人ぼっちではなく自信をもって前進でき、困難や苦しみにも立ち向かうことができるでしょう。

相手の善を願う

人を愛することは単なる感情ではなく、それぞれ「相手の善を願う」ため、多くの具体的な行動と自己犠牲が求められます。イエスは病人や貧しい人々に寄り添い、群衆を憐れに思い、罪人を慈しみ、ご自分を十字架につけた人々を赦すまでに彼らを愛されました。

相手は自分に無関係ではない

私たちにとっても、「相手の善を願う」とは、相手に耳を傾け、その人に心から注意をはらい、喜びや試練を共有し、お世話をし、その人と共に歩いていくことを意味するでしょう。相手は自分に決して無関係な人ではなく、むしろ自分にって決して兄弟姉妹のような存在だと思ふなら彼らに奉仕したいと願うのではないのでしょうか。しかし、それとは全く逆に、相手のことを自分のライバル、競争相手、敵と見なすならどうでしょう。相手の災いを願ったり、その人を踏みつけたり、日々新聞やニュースで報じられるような殺人にまで至ることもあり得るでしょう。

あわれみの約束

今月のみ言葉は、憐れみの道を選ぶ生き方を意味しています。キアラ・ルービックは、次のように語っています。

「ある日皆で約束を交わしました。それを『憐れみの約束』と呼びました。毎朝、私たちはフォーコラーレの中で、または、学校や職場で、出会う一人ひとりを全く新しい目で見ようと固い決心をしました。相手の短所や欠点を完全に忘れ去るようにし、さらにそれを愛でカバーするように努めました。全てを全面的にゆるすという心構えで、あらゆる人に接するように心がけました。

仲間たちと誓ったこの『憐れみの約束』は、とても真剣なものでした。この約束は、すべてを許し、さらに、犯した過ちをも忘れ去ってくださる憐れみ深い神様に倣って生きるよう私たちを促し、自分から先に愛せるように私たちを助けてくれました。」

いつも自分から先に愛するように

